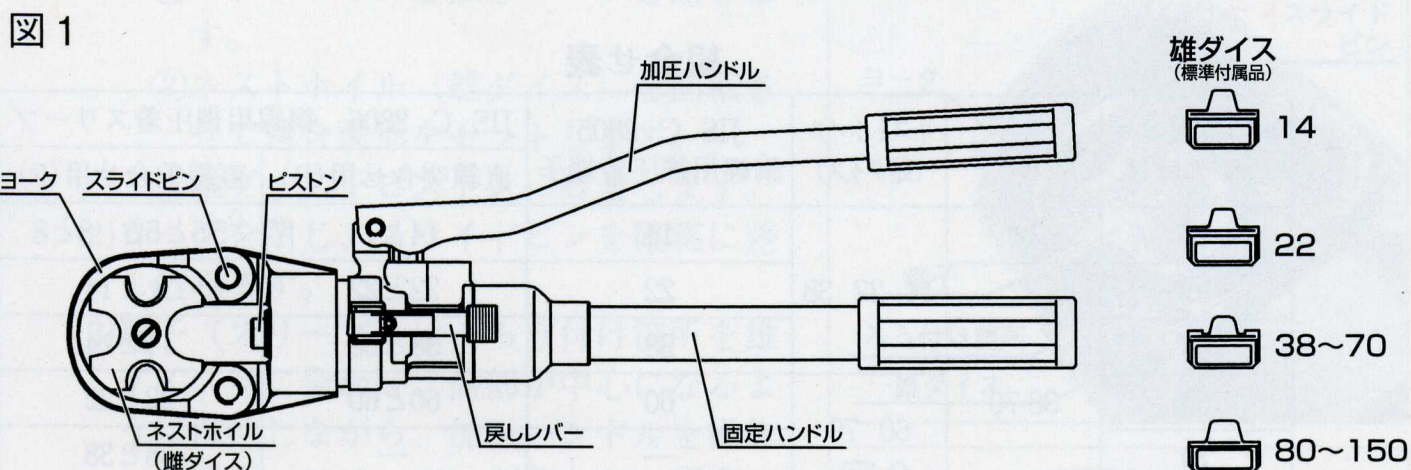


このたびは **ISQ** の工具をお買上げいただき、誠にありがとうございます。
います。

安全で確実な作業を行うために、この取扱説明書を十分お読み下さい。

1. 各部の名称



2. 工具の仕様

項	目	諸	元
構	造	カートリッジ式圧力規制装置・早送り機構付	
適用電線コネクタの種類		JIS C 2805 銅線用圧着端子の裸圧着端子 JIS C 2806 銅線用裸圧着スリーブの 直線突合せ用 (B) 直線重合せ用 (P)	
適用電線コネクタの呼び		14~150	
出力(ダイス部荷重)		90kN	
作	動	油	シェルテラスオイル T15
オイルタンク容量		約83cm ³	
重	量	約3.7kg	

3. 使用上の注意

この工具はJ I S規格適合品であり、適正な圧着ができるよう、各部品は精密な加工と、厳密な組立調整がされております。使用方法を誤りますと故障・事故等の原因となりますので、次の事項に十分注意してお使い下さい。

- (1) J I S規格に適合する配線工事を行う場合には、圧着する端子又はスリーブ及び電線は、必ずJ I Sマーク付のものを使用して下さい。
- (2) 圧着する端子又はスリーブ及び電線とダイスの組合せに誤りのないようにして下さい。

組合せ表

適用電線コネクタの呼び	雄ダイス	ネストホール (雌ダイス)	JIS C 2805 銅線用裸圧着端子	JIS C 2806 銅線用裸圧着スリーブ	
				直線突合せ用(B)	直線重合せ用(P)
14	14	14 22 38	14	14と14	5.5と5.5 8と8
22	22		22	22と22	8 と14
38	38-70		38	38と38	14と14
60		60 70	60	60と60	22と22
70			—	—	38と38
80	80-150	80 100	—	—	22と60
100			100	100と100	38と60
150			150	150	150と150

- (3) 圧力規制装置部は専用のチェックメータによる調整時以外には、絶対に手を加えないで下さい。
- (4) 雄ダイスを付けたままでの、カラ押し操作は絶対にしないで下さい。
- (5) スライドピンは、確実に差し込んでから圧着を行って下さい。
- (6) 工具のヘッド部を人のいる方向へ向けての使用は、さけて下さい。



- (7) 作動油は、指定のもの以外は使用しないで下さい。
- (8) 工具を高所から落とすなど過度な衝撃は与えないで下さい。
- (9) 工具の作動油の流れを良くし、作動を完全にするため-5℃以下で保管した工

具を使用するときは、10～25℃の室内に約60分保管したあと使用して下さい。

(10) 工具を使用しないときは、ピストンを下死点まで下げておいて下さい。

(11) ヘッド部を回転させるときは、ピストンを下死点まで下げて下さい。

4. 使用方法

(1) 圧着する端子またはスリーブにより適合ダイスを選定し、次の順序で装着します。

① スライドピンを抜きヨークを開きます。

② ネストホイール（雌ダイス）を回転させて適合歯形をセットします。

③ 雄ダイスをピストンに装着します。

(2) ヨークを閉じ、スライドピンを確実に差し込みます。

(3) 端子（スリーブ）は、ろう付け箇所を雄ダイス側に合わせ、筒部が中心になるように保持しながら、加圧ハンドルを操作し、端子（スリーブ）が落ちない程度に固定します。〔図2〕

(4) 電線を筒部端より心線が1mm程出るか、突き当たるまで挿入します。

(5) 加圧ハンドルを開閉操作し、ダイス間が密着状態となり、圧力規制装置が作動（ハンドルの操作力が急激に低下）するまで加圧します。このとき、ピストンのロッド部に表示された黒線が見えていれば、圧着が正常に行われたことを示します。〔図3〕

図2

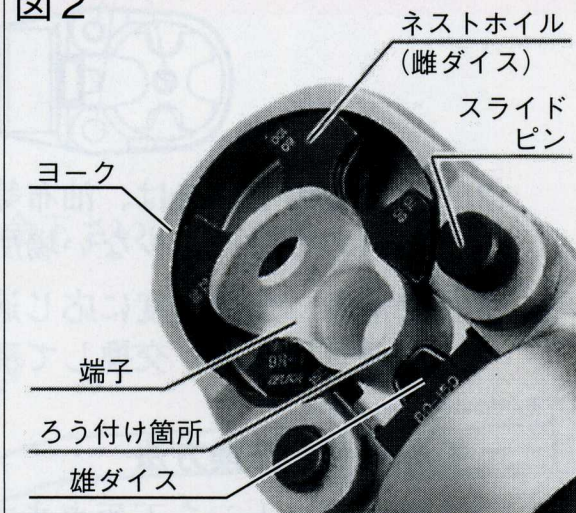
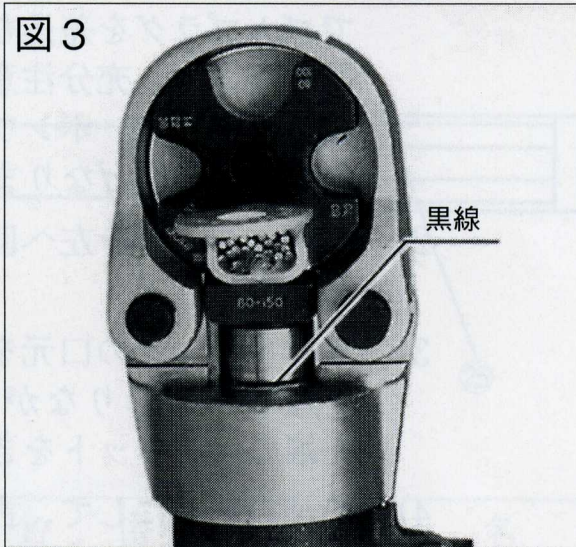


図3



注：圧着が進むに従い、強い操作力（最大245N）が必要となりますので、ハンドルは大きく開かず小さく開閉操作をしますと楽な作業ができます。

(6) 戻しレバーを押し、ピストンを下死点まで下げます。

(7) スライドピンを抜き、圧着した端子（スリーブ）を取り出し、端子（スリーブ）の圧着部分の圧着マークを確認して下さい。

この工具は、圧着開始以後での途中戻しは、非常に困難となる構造となっております。

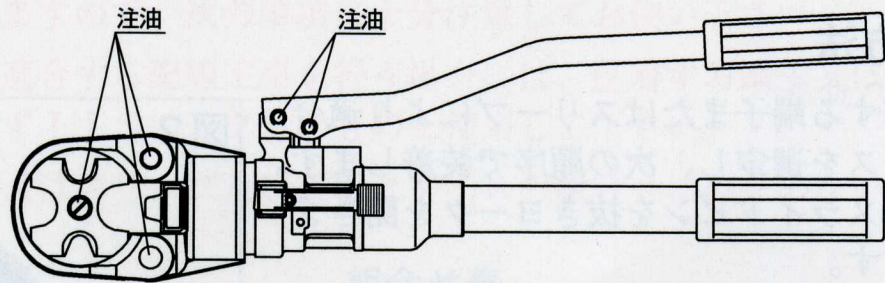
位置決めは確実にいき、圧着を開始したら、必ず圧力規制装置が作動する迄加圧して下さい。

5. 保守・点検

工具をより長く快適にお使い頂くため、次の保守・点検を心がけて下さい。

(1)工具の摺動部には、時々注油して下さい。〔図4〕

図4



(2)工具を使用した後は、油布等で表面の汚れや水分をふき取り、付属の専用ケースに収めて湿気の少ない場所に保管して下さい。

(3)作動油は、使用頻度に応じ適宜に交換し、少なくとも2年に1度は専用作動油に全量（約83cm³）交換して下さい。

◆作動油の交換方法

- 1) ピストンを下死点まで下げます。以後6項でゴムプラグを差込む迄、加圧ハンドルが開かない様、充分注意して下さい。不用意に開きますと、ポンプ部に空気を吸い込み、作動が不安定となります。
- 2) 固定ハンドルを左へ回し、ボディ部から外します。
- 3) オイルタンクの口元をつまみ、ゴムプラグを左右にねじりながらゆっくり引き抜き、先端のマグネットをきれいにふきとります。
- 4) 給油口を下にして、古い作動油を捨てます。
- 5) 給油口を上にし、油差しなどで新しい作動油をゆっくりと口元まで注入します。
- 6) いったんゴムプラグを差し込み、ヘッド部を下にした状態で戻しレバーを押したまま、加圧ハンドルの開閉操作を数回行い、そのまましばらく（5分間以上）放置します。
- 7) 再びゴムプラグを抜き、気泡のないことを確認し作動油を口元まで補充します。
- 8) ゴムプラグを完全に差し込み、固定ハンドルを右に回しながらボディ部にしっかりとねじ込みます。

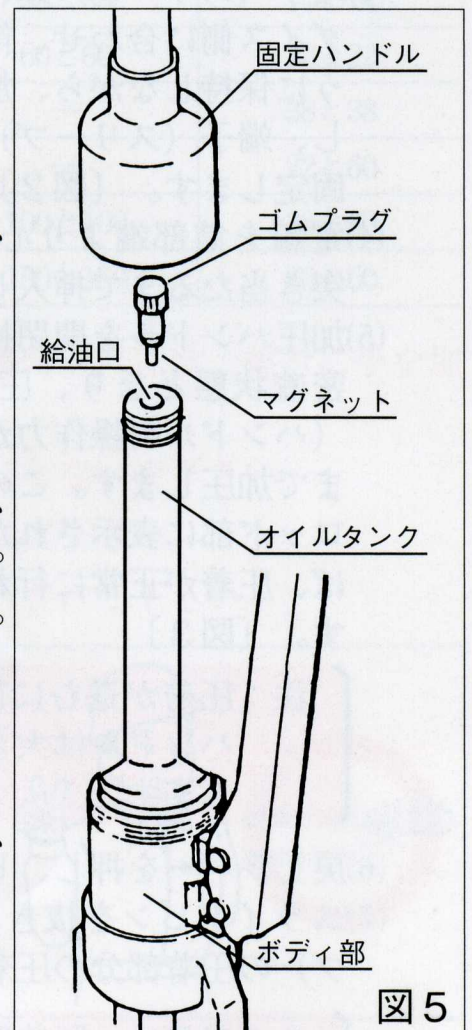


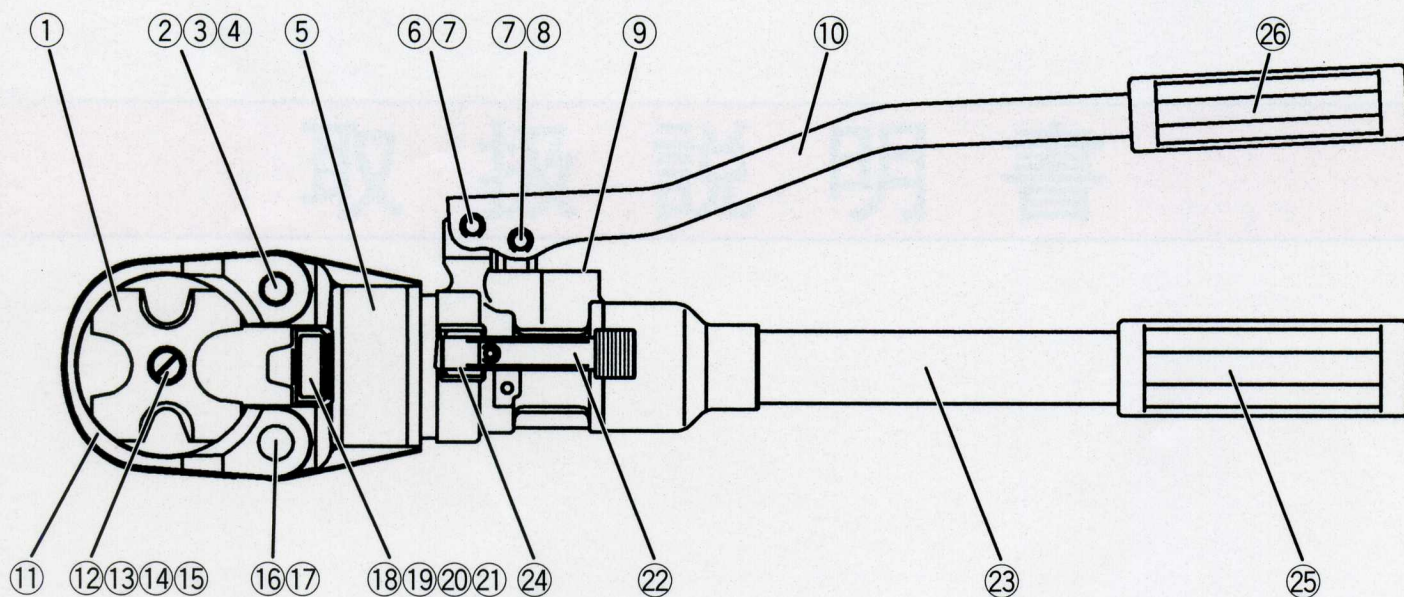
図5

- 9) 交換終了後は、雄ダイスをセットしない状態で、加圧ハンドルの開閉操作を行い、圧力規制装置が正常に作動することを確認して下さい。

- ・加圧ハンドルの全開、全閉を1回として、13回以内で圧力規制装置が作動すれば正常です。
- ・ピストンが息付き現象を生じ、昇圧が不安定な場合は、空気の混入ですので、6項以降の手順を繰り返して下さい。

6. パーツリスト

サービスパーツは下表の番号と品名でご用命下さい。



番号	品名	番号	品名	番号	品名
1	ネストホイル	10	加圧ハンドル	19	22 雄ダイス
2	スライドピン	11	ヨーク	20	38-70 雄ダイス
3	ばね (140)	12	ネストねじ	21	80-150 雄ダイス
4	ストッパピン	13	ウェーブワッシャ W8	22	戻しレバー
5	シリンダヘッド	14	ばね座金 2号6S	23	固定ハンドル
6	軸 (158)	15	六角ナット M6	24	スプリングピン 3×16
7	止め輪 CE-7	16	軸 (197)	25	固定ハンドルグリップ
8	軸 (157)	17	止め輪 CE-12	26	加圧ハンドルグリップ
9	バイパスカートリッジ	18	14 雄ダイス		